

2018年1月

## 東芝の事例にみる減損会計の問題点と改善案

経営学部 経営学科 石田ゼミ  
B4R11104 鈴木健太

### 【卒業論文概要】

2015年に発生した東芝の一連の不正会計問題の要因はのれんの減損損失の認識にあった。こういった問題が発生するということは日本の会計基準にも問題点があるのではないかと考えた。

本論文の目的は、前述の減損損失の認識等の減損会計が抱える問題点を日本基準とIFRS（国際会計基準）で比較し明らかにすることである。

東芝の場合は、のれんの減損損失の認識に対して企業の恣意性が出てしまったことと企業ぐるみで問題を隠そうとしてしまったことや外部の監査自体も形式的なもので、その中身は全く機能してなかったことなどが挙げられる。東芝の例とは異なる点では、日本基準とIFRSを比較してみると日本基準では減損損失の戻入れがIFRSと違ってすることができないが、もしも減損処理後に資産価値が増加した場合に対応できないのではないかとという問題点もあることがわかった。

東芝の場合は、企業体質に大きな問題があったためどうしようもないところもあったが、外部の監査役に力をもたせること、将来キャッシュ・フローの見積もりをしっかりとすれば企業の恣意性を抑えることができると考える。減損損失の戻入れについては、より柔軟な対応ができるIFRSに合わせていくべきだと考える。